

今月の植物

カラタチバナ (サクラソウ科、旧ヤブコウジ科)

Ardisia crispa (Thunb.) A.DC.

1月はおめでたい植物が取り上げられているので、今回はカラタチバナを紹介します。

冬に赤い実をつける植物は縁起物としてお正月に飾られます。センリョウ(千両)やマンリョウ(万両)の他、2年前のこのコーナーで取り上げられたヤブコウジ(別名十両)、今回のカラタチバナ(別名百両)が知られています。一両もあって、ツルアリドオシが該当します。いずれも常緑で、冬枯れの季節に緑色をしているところも縁起物の理由の一つと思われます。千両や万両などの金額の違いは赤い実の大きさの違いという説があります。

漢字では唐橘と書き、中国のタチバナという意味です。葉の形はタチバナを細長くした感じですが、古来からある在来種なので中国のタチバナと言うには疑問が残ります。分布は福島県、新潟県以西の照葉樹林内で、国外では中国、台湾に分布しています。

カラタチバナはサクラソウ科ヤブコウジ属の常緑小低木で、7月頃に開花し、11~3月に赤い実を付けます。佐賀県では主に県東部の低山域に分布していますが、個体数は少なく県レッドリスト指定種(絶滅危惧Ⅱ類)です。調査をしてみると1カ所で見つかるのは、ほとんどの場合が数個体です。(上赤博文)



(2018年11月9日、脊振町 上赤博文撮影)